

「健康都市 やまと」
まち・ひと・しごと創生総合戦略

～なでしこ応援・人口対策プラン～

(たたき台)

目 次

1. 大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

- (1) 策定の背景
- (2) 大和市総合計画との関係性、計画の位置づけ
- (3) 計画期間

2. 戦略の策定に向けて

- (1) 大和市の概要
- (2) 大和市版人口ビジョンの将来展望との関係性

3. なでしこ応援・人口対策プラン

- (1) 計画策定の基本的な考え方と体系
- (2) 基本目標と施策の内容

4. 戦略策定の経過とP D C Aサイクル

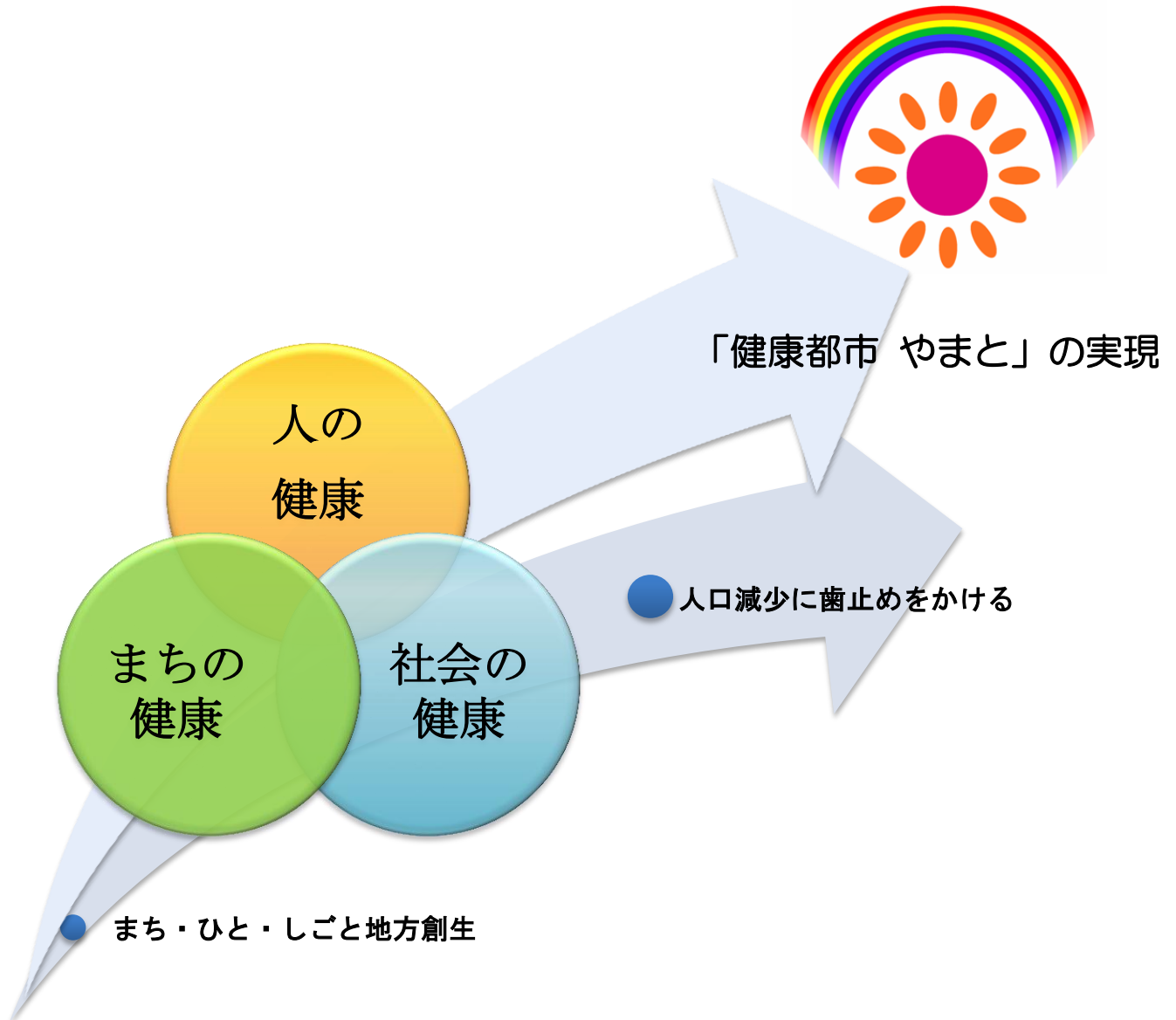
- (1) 策定経過
- (2) P D C Aサイクル

1. 大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

1. 大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

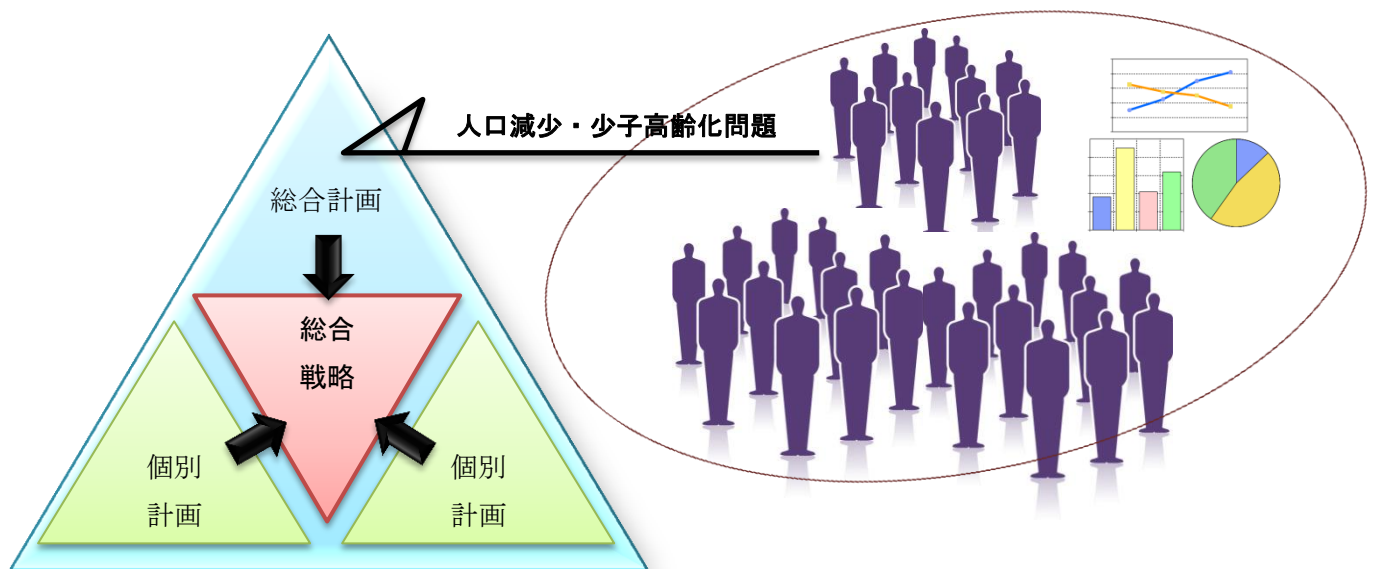
(1) 策定の背景

- ・国は平成 26 年 11 月に、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことなどを目的として「まち・ひと・しごと創生法」（以下「法」という。）を施行しました。また、同年 12 月には法に基づいて「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定され、閣議決定が行われました。
- ・法第 10 条には、「市町村は国及び都道府県の総合戦略を勘案して、『市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略』を定めるよう努めなければならない」とされています。
- ・大和市は健康を市政の基軸に据え、「人」、「まち」、「社会」の 3 つの領域の健康の実現を目指す「健康都市」の取り組みを推進しており、その中で、国の動きに先駆けて少子高齢化対策を積極的に展開してきました。今回の国の対応は、「健康都市やまと」の実現に向けた取り組みと、その方向性が同一であると捉えられることから、本市においても「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、市政のさらなる展開を図っていきたいと考えています。



(2) 総合戦略と大和市総合計画との関係性、総合戦略の位置づけ

- ・本市には、「健康創造都市 やまと」を将来都市像に掲げ、土地利用の有り方も含めて、市政の大きな方向性を定めた「総合計画」があります。
- ・この総合計画が市の最上位計画となるため、今回、策定する「大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略」についても、総合計画に包含されるものとなりますが、人口対策として効果的と考えられる施策を整理し体系化したプロジェクトとして位置づけます。
- ・プロジェクトとして明確化し、PDCAサイクルを稼働させていくことで、人口対策を実効性のあるものとしていきます。



(3) 計画期間

- ・平成27年度～31年度

※計画期間は国の通知によって定められているため、第8次大和市総合計画の計画期間と終了年度が異なります。

2. 戦略の策定に向けて

2. 戦略の策定に向けて

(1) 大和市とは

○全般

- ・大和市は、神奈川県ほぼ中央に位置し、横浜、相模原、藤沢、海老名、座間、綾瀬、東京都町田の各市に隣接する、人口約 23 万人の自治体です。市域は南北に細長く、丘陵起伏がほとんどありません。
- ・面積は約 27 平方キロメートルと小さな市ですが、都心から 40km 圏内 3 つの鉄道が東西南北に走り、東京へ 1 時間弱、横浜へは 20 分で行くことができます。市内には 8 つの駅があり、市域のほとんどが駅まで 15 分以内の徒歩圏内にあります。
- ・また、道路網も国道 16 号線、246 号線及び 467 号線のほか県道 4 線が縦横に走り、東名高速道路横浜町田インターチェンジにも近いなど、交通の利便性に恵まれています。



○健康都市のあゆみ

- ・「健康都市 やまと」を宣言
- ・「健康創造都市 やまと」を将来都市像とする、第 8 次大和市総合計画を策定
- ・健康都市連合への加盟
- ・健康都市優秀インフラストラクチャー賞を受賞
- ・「60 歳代を高齢者と言わない都市 やまと」を宣言
- ・第 4 回健康寿命をのばそう！アワード厚生労働省健康局長優良賞を受賞

○大和を代表する「6つの森」とまちの魅力スポット

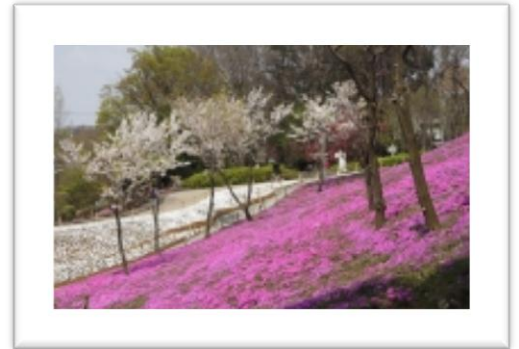
泉の森



中央林間自然の森



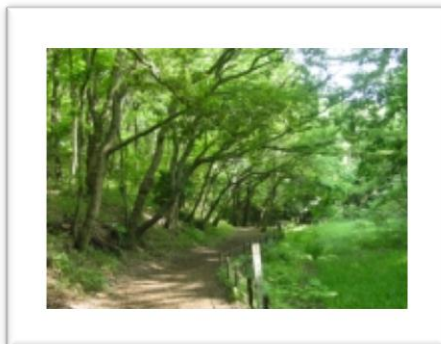
ふれあいの森



中央の森



上和田野鳥の森

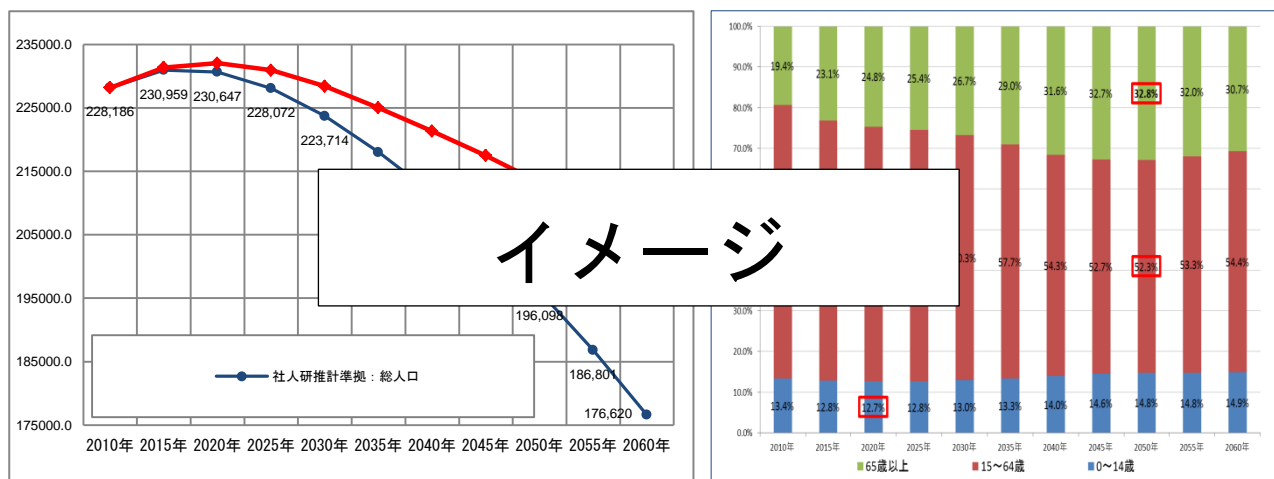


深見歴史の森

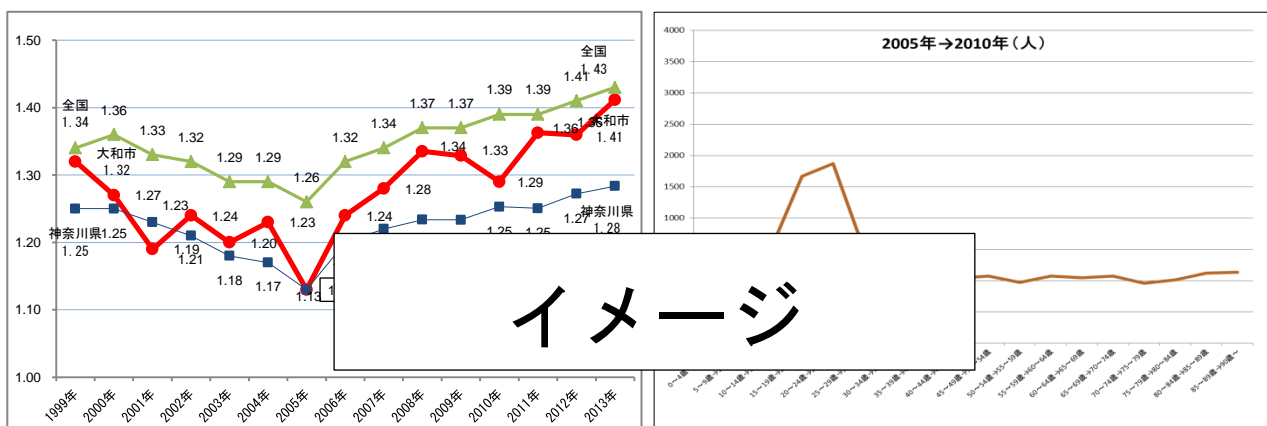


(2) 大和市版人口ビジョンの将来展望について

- ・大和市版人口ビジョンの将来展望では、市民の結婚・子育て等に関する希望がかなった場合、出生率は1.76に達するとし、その際の人口は2030年で〇〇人、2040年で●●人、2060年には、▲▲人となり、45年後も××万人を維持しています。
- ・年齢3区分別の構成では、65歳以上人口の割合が▼▼年に最も多い〇〇%をピークに低下する一方、年少人口の割合は◆◆年以降に上昇に転じ、適当な人口構成のバランスが保持される姿が描かれています。



- ・このような将来展望の総人口・人口構成を実現していくためには、子どもを産み育てやすい環境のさらなる充実や、結婚をしたいと感じられる環境を整えていくなど、人口の自然増につながる取り組みを第一に進めていく必要があります。
- ・また、日本全体が人口減少に突入している中であって、今後も現在と同水準の社会増を期待することは難しくなってきます。そのため、まちの魅力を高める取り組みも並行して進め、定住人口や交流人口を増やしていくことも必要になってきます。



人口の自然増と社会増とは

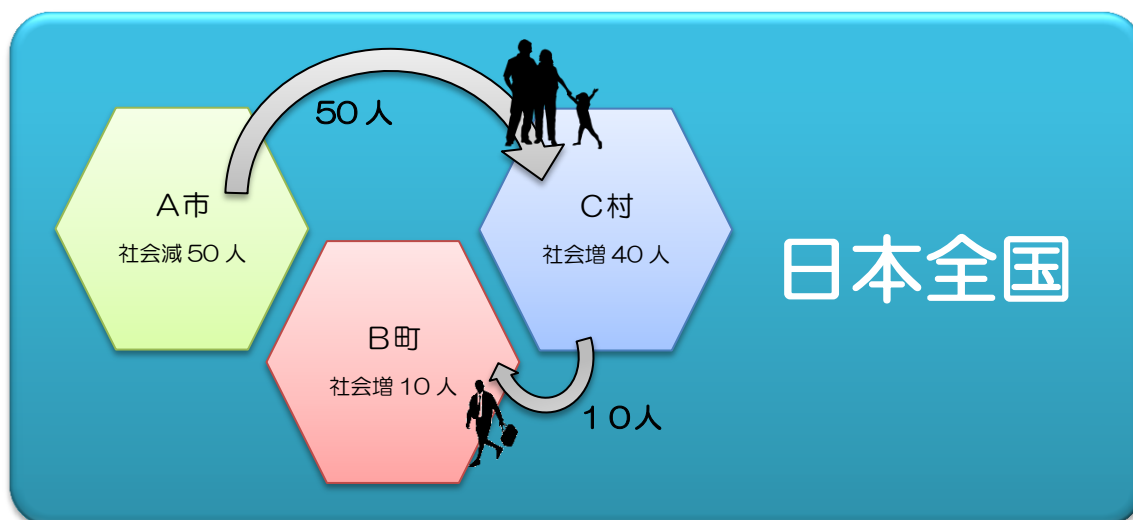
●自然増減（＝出生数－死亡数）

- ・出生数と死亡数の差し引きで表されます。出生数が死亡数を上回っている時には自然増となつて、人口が増加します。反対に死亡数が出生数を上回るようになると、自然減となり、人口は減少していきます。
- ・少子高齢化に伴い、出生数が減ると同時に死亡数が増加していくため、今後、多くの自治体が自然減に移行していくものと想定されています。



●社会増減（＝転入数－転出数）

- ・一定の地域内に流入してくる人と地域内から流出する人の差し引きで表され、自治体では、転入者数と転出者数の差し引きにより値を求めます。
- ・転入者数が転出者数を上回っている時には社会増となりますが、反対に転出者数が多くなると社会減になります。
- ・大都市圏に位置する自治体は、地方から進学や就職に伴って転入してくる人の受け入れ先になっているため、社会増となっているところが多くあります。
- ・しかしながら、進学や就職する人は若年層が多いため、少子高齢化のさらなる進展に伴い、大都市圏の社会増も縮小していくことが見込まれています。
- ・また、日本全体で捉えると、自治体間を人が移動するのみであるため、人口は変わりません。



3. なでしこ応援・人口対策プラン

3. なでしこ応援・人口対策プラン

(1) 計画策定の基本的な考え方と体系

○基本的な考え方

国の対応

- ・国の総合戦略には人口減少へ歯止めをかける視点として、①東京一極集中の是正、②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、③地域の特性に即した地域課題の解決、が掲げられています。
- ・この①～③を実現していくため、「地方における安定した雇用を創出する」を軸とした4つの基本目標が整理されています。



大和市では

- ・大和市では、まちづくりの機軸に「健康」を据え、人・まち・社会のすべての健康を達成し、市民生活を豊かにしていく、「健康都市の実現」に向けた取り組みを推進しています。
- ・移住政策など社会増を促す施策は、日本全体で見ると人口減少の解決を図る根本的な対策につながりにくいと考えられるため、健康都市の実現に向けた取り組みをさらに加速させることで、若い世代の就労・結婚・子育ての希望をかなえ、自然増を促していきます。
- ・一方、自治体間競争が加速する中で、まちの活力を維持するにあたっては、本市においても社会増に関する取り組みに力を入れていく必要性が高まっています。



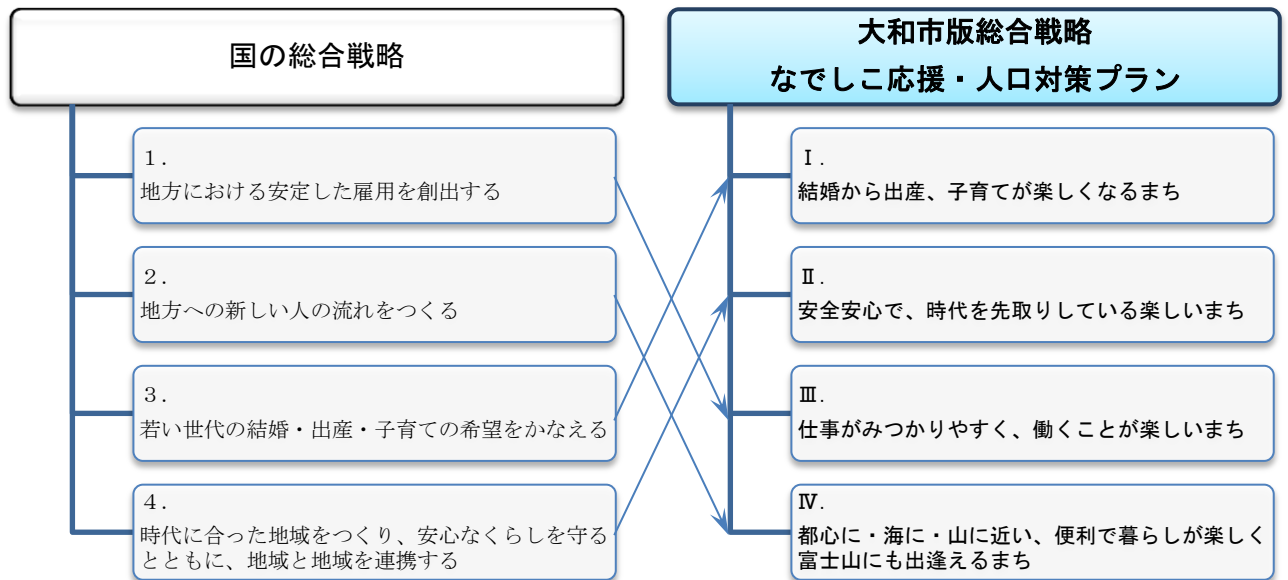
自然増を促していくための視点

→現代社会の各ライフステージでは、女性に様々な負担がかかっていると考えられることから、女性の視点を大切にしながら、その負担を取り除いたり、サポートしたりする必要があると思われます。そのためには、①子どもを産み育てやすい環境の一層の充実や、②高い交通利便性を活かした暮らしに魅力を感じるまちとしての環境整備、③働く女性の支援等を進めていくことなどが重要であり、若い世代が「子育て＝負担感」ではなく、「子育て＝楽しい」を実感できるまちにしていくことで、自然増に繋げていきます。

社会増を促していくための視点

→子育てしやすいまちとして魅力を高めるほか、大和市にある貴重な地域資源を活用し、「暮らしやすく便利なまち・家に早く帰りたくなるまち」であることを④市内外にPRすることで、社会増も並行して促していきます。

以上を踏まえ、次ページのように国の基本目標との関連性を整理しました。



○計画の体系

**「健康都市 やまと」 まち・ひと・しごと創生総合戦略
～なでしこ応援・人口対策プラン～**

I. 結婚から出産、子育てが楽しくなるまち

- (1) 出産しやすいまち・出産したくなるまちにする
- (2) 子育てしやすいまち・子育てしたくなるまちにする
- (3) 結婚しやすいまち・結婚したくなるまちにする

II. 安全・安心で、時代を先取りしている楽しいまち

- (1) いつまでも健康でいられるまちにする
- (2) 楽しく外出できるまちにする
- (3) 子どもから大人まで、いつまでも暮らしやすいまちにする

III. 仕事が見つかりやすく、働くことが楽しいまち

- (1) 近くで働けるまちにする
- (2) いつまでも活躍できるまちにする

**IV. 都心に・海に・山に近い、便利で暮らしが楽しく、
富士山にも出逢えるまち**

- (1) やまとの魅力を発信する
- (2) 魅力的なイベントの開催・やまとの味覚を提供する



(2) 基本目標と施策の内容

基本目標 I

結婚から出産、子育てが楽しくなるまち

○基本的な考え方

日本全体の人口減少の解決には、自然増加の視点が不可欠です。また、地域に子どもがたくさんいることは、社会性を身につけたり、良い意味での競争心を養ったり、子どもの成長環境としても大切なものであると考えられます。

大和市では、健康都市の実現を目指し、子どもを産み育てやすい環境の充実を国に先駆けて取り組んできました。その結果、大都市圏における出生水準が低い中、大和市の合計特殊出生率は神奈川県内19市でも上位の水準にあります。

今後は、便利で暮らしやすい大和市の特徴を活かし、充実した子育て環境をさらに高めて、出産や子育てを存分に「楽しめる」まちにするとともに、結婚を希望する人への支援のあり方についても検討を進めていきます。



○数値目標

項目	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2021年)
市民意識調査「子育てに関する不安を相談できる場があると思う市民の割合」	50.0%	〇〇%
年間出生数	2,111人	●●人
婚姻率(人口千人対)	6.1件	●●件

▶▶ 個別目標1 出産しやすいまち・出産したくなるまちにする

▼働く女性をサポートする①

- ・保育所等の建設・増設支援による待機児童の解消

▼出産・子育ての不安・悩み・負担を取り除く

- ・乳児家庭全戸訪問、育児相談、親育ち支援プログラムの実施
- ・プレママ・パパ教室、離乳食講座、保育所におけるまもなくママ講座等の実施
- ・親子 de 健康診査の実施

▼出産にかかる経済的負担を軽減する

- ・妊婦健康診査・歯科健康診査費用の助成
- ・不妊・不育症治療費の助成
- ・出産費用の助成

K P I (重要業績評価指標)	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2021年)

▶▶ 個別目標2 子育てしやすいまち・子育てしたくなるまちにする

▼働く女性をサポートする②

- ・保育所等の建設・増設支援による待機児童の解消
- ・保育コンシェルジュの配置
- ・ファミリーサポートセンターの運営、病児お迎えサービスの実施
- ・休日保育、病児保育の実施
- ・幼稚園の運営支援による一時預かりの充実
- ・放課後児童クラブの運営

▼子育て等に関する情報を分かりやすく伝える

- ・らくらく予防接種

▼子育てにかかる経済的負担を軽減する

- ・中学生までの小児医療費助成
- ・市立小中学校等に通う第3子の給食費の助成
- ・保育所等の保育料の第2子半額・第3子以降無料化
- ・寡婦(夫)控除のみなし適用

▼大和で生まれ・学べて良かったと感じられる子育て・教育環境の充実を図る

- ・屋内こども広場の運営
- ・こども〜る(つどいの広場事業)の実施
- ・学校図書館教育の充実
- ・放課後子ども教室、寺子屋やまとの開催
- ・身近な公園と、ゆとりの森などの大きな公園の充実

K P I (重要業績評価指標)	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2021年)

▶▶ 個別目標3 結婚しやすいまち・結婚したくなるまちにする

▼結婚へと繋がる支援のあり方を検討する

- ・結婚意識調査の実施

K P I（重要業績評価指標）	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2021年)

○基本的な考え方

人口の自然増を考える上では、出生数の維持や増加がもちろん大切ですが、健康寿命の延伸を図ることで死亡者数を抑制したり、介護予防に取り組んだりする視点も重要です。

また、バリアフリー化等によって市内の安全性を高めることにより、高齢の人へ配慮しつつ、ベビーカーで出かけやすい環境にするとともに、平坦な地形・高い交通の利便性といった大和市の特性がさらに引き立つような取り組みを展開していくことで、外出したくなるような楽しいまちにしていきます。これにより、「交通や買い物の利便性が高い」、「暮らしやすい」、「暮らしが楽しい」、「子どもを産み育てやすい」、「いつまでも元気で暮らせる」のように、子どもから大人まですべてのライフステージで暮らしを満喫できる都市を実現し、人口の自然増と社会増の両面にアプローチしていきます。

○数値目標

項目	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2021年)
市民意識調査「健康であると思う市民の割合」	79.0%	〇〇%
市民意識調査「日常的にスポーツを楽しんでいる市民の割合」	33.8%	〇〇%
地域防災訓練を実施している自治会の割合	67.5%	〇〇%
年間犯罪発生件数	2,317件	●●件

▶▶ 個別目標1 いつまでも健康でいられるまちにする

▼健康寿命の延伸を図る

- ・健康図書館の整備
- ・健康遊具の設置と遊具を活用した介護予防の推進
- ・がん検診の充実
- ・保健師・管理栄養士による地域訪問活動の展開 ・健康遊具の設置
- ・市立病院の安定的な運営と良質な医療の提供

▼スポーツを推進する

- ・スポーツセンター、ゆとりの森等の環境整備
- ・女子サッカーを中心とした地域型スポーツクラブの運営支援

K P I (重要業績評価指標)	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2021年)



▶▶ 個別目標2 楽しく外出できるまちにする

▼新たなコミュニティバス利用の提案

▼親子で出かけたくなるまちにする

- ・ベビーカーで移動できるまちのバリアフリー化、歩道のセーフティーアップの実施

▼ぶらっと出かけたくなるまちにする

- ・地域の居場所の整備
- ・健康図書館の整備（再掲）
- ・文化芸術ホールにおける魅力的な音楽・舞台の提供
- ・プロムナード西側：なでしこの道の整備
- ・ゆとりの森へのルート案内の充実
- ・スポーツセンター、ゆとりの森等の環境整備（再掲）
- ・自転車通行帯の整備

K P I（重要業績評価指標）	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2021年)

▶▶ 個別目標3 子どもから大人まで、いつまでも暮らしやすいまちにする

▼防災・防犯力、市民のつながりを強める

- ・自主防災組織の活動支援
- ・街頭防犯カメラ等の増設
- ・自治会活動の支援
- ・やまと市民討議会の開催

▼大和市全体のまちのバランスを考える

- ・中央林間駅周辺の街づくり
- ・立地適正化計画の策定

K P I（重要業績評価指標）	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2021年)

○基本的な考え方

国や本市が行った意識調査によると、結婚資金、出産や子育て、教育にかかる費用などについて、負担を感じている人が多くみられるため、生計を支えられる仕事の確保が重要になっているものと思われます。大和市では神奈川県内19市でも2番目に創業比率（2009～2012年）が高いというポテンシャルをさらに活かすため、創業を支援していく取り組みを推進し、雇用の創出につなげていきます。

また、本市は交通の利便性が高いこともあり、市内外を問わずどこにでも通勤できるため、様々な働き方を希望する女性のサポートや、若者の働く意欲を高める取り組みも進めつつ、市域の特性を踏まえた企業誘致のあり方なども検討していきます。

さらに、まちの活力の維持に向け、「さがみロボット産業特区」内であるという立地を活かした市内工業の振興などにも取り組んでいきます。

○数値目標

項目	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2021年)
市内事業所従業者数	76,316人	●●人
創業比率	2.59%	○○%
市民意識調査「高齢の人が地域で生き生きと活動していると思う市民の割合」	56.6%	○○%

▶▶ 個別目標1 近くで働けるまちにする

▼働く女性をサポートする③

▼若年層等の就労をサポートするとともに、働くことの楽しさを伝える

- ・就職に向けた相談会、セミナーの開催

▼創業・企業の支援を行う

- ・「さがみロボット産業特区」を活用した工業支援
- ・間接融資、利子補給等による産業支援
- ・出店料補助等による販路拡大の支援
- ・大和商工会議所への支援
- ・商業戦略計画の推進

KPI（重要業績評価指標）	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2021年)

▶▶ 個別目標2 いつまでも活躍できるまちにする

▼豊かな経験や知識を活かしてもらう人とステージをマッチングする

- ・シルバー人材センターの支援

K P I (重要業績評価指標)	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2021年)



「60歳代を高齢者と言わない都市 やまと」宣言

- ・人生80年の時代を迎え、これまで高齢者とされてきた世代の意識も大きく変わり、今では、多くの方々が生き生きと過ごしています。
- ・家庭や地域を支えている方、職場で頑張っている方など、豊かな知識と深い経験を持つ人材は大和の貴重な宝です。
- ・こうした方々に、いつまでも、はつらつと元気に活躍していただきたいと考え、ここに「60歳代を高齢者と言わない」ことを宣言します。

平成26年4月1日



基本目標 IV

都心に・海に・山に近い、便利で暮らしが楽しく、富士山にも出逢えるまち

○基本的な考え方

大和市には神奈川県中央に位置し、非常に便利な交通機関を使うことで、様々なスポットにすぐに行くことができます。子育て、仕事、買い物、遊びといった、生活のあらゆるシーンに対応可能な最高のロケーションを有しており、「便利で暮らしが楽しいまち」としての魅力を生市内外にPRし、社会増を促していきます。



また、市内にも暮らしが楽しくなる魅力的なスポットがたくさんあります（●●ページ参照）。子どもの遊び場や、自然、文化、スポーツなどを楽しめる施設等がコンパクトな市内に数多くあり、それらを県内でもっとも充実したコミュニティバスでつないでいます。



さらに、「大和市民まつり」をはじめ、「渋谷よさこい」や「YAMATO ART100」、「うまいもの市」など四季を通じて多彩なイベントが開催されています。

こうしたロケーションに加え、「充実した子育て・教育環境」をPRし、30歳代の子育て世帯の転出超過傾向を抑制しながら、年少人口の増加へと結びつけ、まちの活力を維持していきます。

○数値目標

項目	現状値	目標値
	(H26:2014年)	(H31:2021年)
市民意識調査「大和市内にずっと住み続けると回答する20~30代の市民の割合」	32.2%	〇〇%
人口の社会増減	231人	●●人

▶▶ 個別目標1 やまとの魅力を発信する

▼市内・全国にまちの魅力を発信する

- 交通の利便性等のPR（市内・市外のアクセス性）
- 市内魅力スポットのPR
- 市民の手によるまちの魅力、市政情報発信の支援
- フィルムコミッションの推進
- YAMATO de Ingress の実施

K P I（重要業績評価指標）	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2021年)

▶▶ 個別目標2 魅力的なイベントの開催・やまとの味覚の提供

▼このまちに住みたいと思えるイベントの開催

- 大和市民まつり、渋谷よさこい、YAMATO ART100など、魅力的なイベントの開催
- イベントキャラクター・ヤマトンの活躍

▼やまとの味覚の提供

- 6次産業の推進に向けた、農業・商工業との連携体制の構築
- 地場産農作物による新たな味覚の発掘

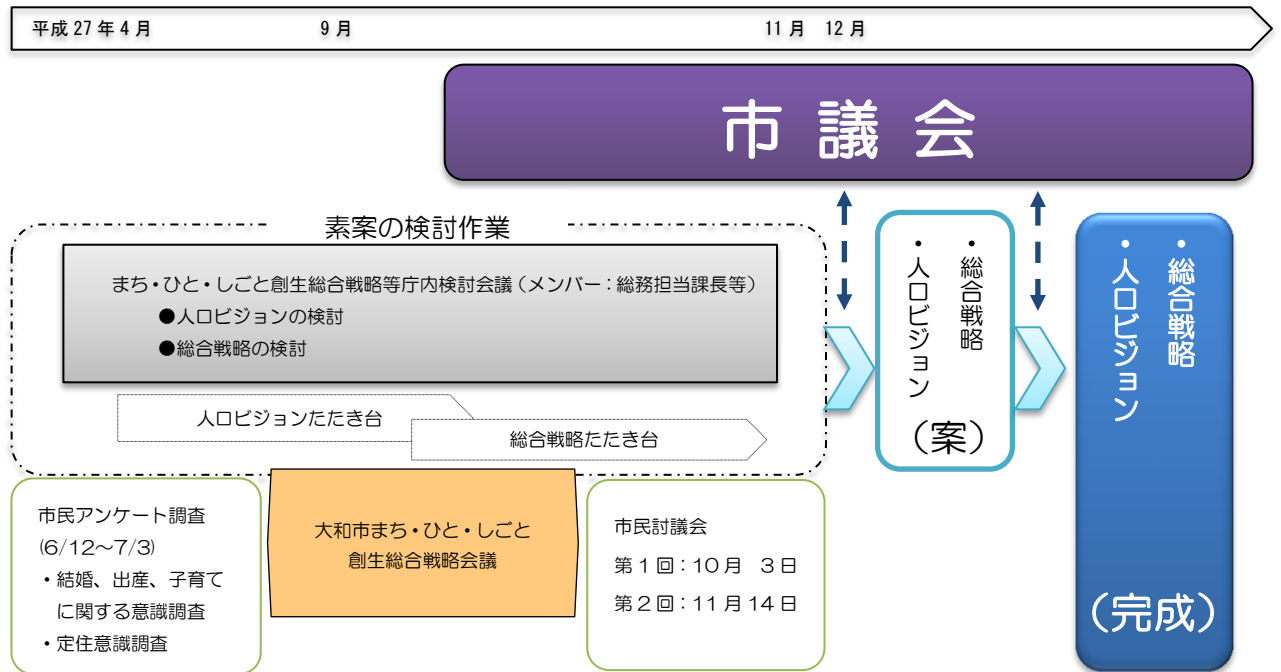
K P I（重要業績評価指標）	現状値 (H26:2014年)	目標値 (H31:2021年)

4. 戦略の策定経過とPDCAサイクル

4. 戦略の策定経過とPDCAサイクル

(1) 策定の経過

○全体の流れ



○市民アンケート調査

- ・実施期間：平成 27（2015）年 6 月 18 日（木）～同年 7 月 3 日（木）
- ・調査方法：郵送により配布・回収
- ・調査内容：結婚・子育てに関する意識（独身者・夫婦世帯）、定住意識
- ・対象者数：次のとおり

	独身者 アンケート	夫婦世帯 アンケート	定住意向 アンケート	全 体
配布数	2, 000	2, 000	2, 000	6, 000
回収数	392	854	951	2, 197
回収率	19. 6%	42. 7%	47. 6%	36. 6%

○大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

・委員（50音順）：

委員氏名	役職等
小野沢 滋	北里大学病院 トータルサポートセンター長（医師）
川崎 泰彦	神奈川県 県央地域県政総合センター所長
宮東 悠	大和商工会議所会頭
小別所 ひで子	株式会社神奈川中央新聞社 リベルタ 代表取締役
島津 正明	大和公共職業安定所所長
鈴木 健	横浜銀行大和支店支店長
渡辺 勝之	聖セシリア女子短期大学学長

・開催結果：

第1回会議（平成27年9月30日 市役所5階・第5会議室）

（1）大和市版人口ビジョンの策定に向けて

第2回会議（平成27年10月28日 勤労福祉会館2階・中会議室）

（1）大和市版人口ビジョンの目次（案）と策定イメージについて

（2）地方版総合戦略のフレームについて

第3回会議（平成27年12月21日 市役所5階・第5会議室）

第4回会議（平成28年 1月〇日 △△△△△）

○やまと市民討議会

・概要:

日頃、市政について意見を表明する機会の少ない市民の方から意見を伺うことを目的に開催しているもので、本市では平成24年度から取り組みを進めてきました。

・開催内容:

●平成27年10月3日 第1回 テーマ「人口減少を食い止めるアイデア」

テーマ① 子育て支援環境をもっと充実させるためには

子育て支援に関する情報が不足している	子育て支援情報の発信、入手をスムーズにするためのアプリを開発し、繰り返し発信しよう
緊急時の子どもの預け先など、子育て層の求める支援メニューがない	すぐやる課、何でも相談室を設置しよう 子育て層の支援ニーズ把握のために、市民討議会の継続的実施、若者を巻き込んだプロジェクトチームを発足し、取り組もう
日頃、ご近所付き合いなど、地域でのコミュニケーションが不足している	空き家や大きな家を活用して、昔の大家族のようなあたたかみのあるシェアハウスをつくろう
日常でも、子どもを育てる(預かる)環境がない	コミュニティセンターのより一層の充実と活用をしようー子育て支援の可能性を身近な市の施設で探るー

大和市の子育て施設や支援制度を把握していない市民が多い	子育て支援に関するホームページを充実させ、「子どもが〇歳」と検索すると、受けられる制度や支援などの一覧が出てくるようにしよう
SNSや掲示板、ゆるキャラを利用した情報発信があるといふ	駅やスーパーに電子掲示板を設置して、情報を迅速に更新、PCやスマホを見れない人にも伝わるようにしよう
地域のコミュニティを強く、子育てでいざという時に頼れる人がいるといふ	コミュニティセンター主催の親子向けイベントなどで、ネットワークづくりを。子育てする若い家族を地域で支援することについて考えるワークショップを行う
ママのネットワークを強めてお互い助け合えるようにできないか	互助につなげるため、集える公園森に行けることをアピールしよう
住宅を取得して年数の経った人に出産お祝金を、転出を助けないか	金銭面が不安な若い親が多いので、3人目以降の出産には市からお祝い金の制度があるといふ

テーマ② 定住できる環境(住宅・雇用)や、経済的不安を解消するアイデア

核家族化の進行 地域コミュニティが希薄で支えあえない 家賃が高くて住めない	スーパの冷めない距離での多世帯の居住や二世帯住宅・多世帯住宅など、「近居・同居」の大和スタイルをつくらう
子どもの遊び環境が悪化	楽しく育った思い出のあるまちには将来戻ってきたいので、子どもが安全で自由に遊べる環境をつくろう
収入が少なく定年後の経済的な安定につながらない	高齢になっても安心して住み続けられる環境づくりにより、家族と一緒に住めるまちになり、税収の確保にもつなげよう
高齢になっても自立して安心して住み続けたい	子育てにお金がかかりすぎる 産休後の仕事への復帰、子育てと仕事の両立が課題
市内の企業が少なくて、雇用の拡大が必要	北部の保育所の充実や養育費の補助、子育て施策のPRを通じて、市のフォローがあり、安心して子育てできる環境づくりを進めよう 商店街の空き店舗を活用して、新しいお店を誘致し、身近な雇用を生み出そう

若い人に魅力的な生活環境が不足している 高齢者が子育て世代の相談にのり、手伝える施設や仕組みが必要 高校生も子育てサポートや交流ができることよい	若い人に選ばれる生活環境として、高齢者や高校生もボランティアとして子育てのサポートに関わる仕組みをつくる
住宅を若い人に安く提供できないか	市営住宅に住む若い世代の収入条件を緩和して、若い人たちにとどまらせてもらえるようにしよう
定住したいと思う魅力は既にある	定住できる魅力的な環境はすでにある！ことをPRしよう
定住に結びつく教育環境の充実が必要	特殊な技術を学べる専門学校を誘致し、学びからまちの雇用につなげよう
魅力あるユニークな生み出す工夫が必要	【特区】をつかって、小さくても魅力ある企業を誘致し、〇〇のまち大和】でたくさん雇用を生み出そう
出産後も定年後も活躍できるまちにすべき	企業と多様な働き手をマッチングしよう

テーマ③ 子育てしやすくなるような魅力を見つけ、伝え、UPするアイデア

男性による子育てのよさを見える化して発信することが必要	結婚しなくても子どもを持つ、「男性による子育てはかっこいい」ブランドをつくろう
子育てしながら働けるまちの環境やイメージづくりが必要	大和の資源を生かして国際交流に力を入れたグローバルな子育てができるまちブランドをつくろう
国際交流に力を入れて、国際的なイメージを形成	コミュニケーションを重視した子どもを産み育てるための意識改革イベントを開催しよう
子どもを産み育てるための意識啓発のイベントの充実が必要	泉の森を活用して親子の遊び場を確保しよう
大人も子どもも楽しめる場所がない	大和市内、市外を問わず、大和市の子育ての魅力を発信するため、既存のHPを直感的に分かるように改善しよう
HPでの子育てなどに関する情報発信を充実させ、分かりやすく、他市との比較をしやすい必要がある	大和市独自の取り組みのアピールが足りない
医療・福祉・教育の環境が整っている	学校以外でも、「寺子屋」など、様々な子どもの学びの場を選択できる環境をつくろう

ウリになる景色、自然、スポット、イベントがあり、都心へのアクセスのよさがあることを活かさないか	パリエーション豊かなまちの資源を、地域にゆかりのある企業とタイアップして、工夫あるPRをしよう！
蔵に長い特徴や興味深い歴史がある	大和市の魅力のPR方法は、色々な方法がありそう！既存の方法以外の工夫に知恵を出そう！
地場の野菜、果物が豊富である	自然・公園・施設など、「親」と「子」で一緒に遊べる場所を増やそう
公園は点在しているが、もっと魅力的な活用ができないか	「自転車どこでも行ける」「ベビーカーも移動しやすい」という平坦な地形の便利さを伝えよう！
親子で遊べる場や機会を充実できないか	「子育てがしやすいまち」だと気づこう！住民自身が口コミでPRしよう！
災害に強く、移動しやすい平坦な土地	
歩きやすい安全な移動手段があるといふ	
犯罪の少なさ、地価の安さ、活気ある商店街等の魅力を人口増加につなげられるといふ	

テーマ④ 若者が出会える場や機会をつくらう

面と向かわずとも話できるツールがある	色んな人、世代が会って語り合える交流の場をつくってほしい
個人情報が扱えず、世話焼きができない	「大和ですつと住み、働き、学ぶ！」をスローガンに、大和市で結婚相談センターや相談員を設置しよう
人と積極的に触れ合わない	大和市が行っている様々な取り組みをまとめ、情報発信してほしい
勉強や日々の生活の忙しさから、友人とのコミュニケーション力が低くなる	地域のイベントに積極的に参加し、出会いを増やすよう、色んな世代が主体的に関われる環境づくりをしよう
学生は男子は弱体化し、女子は自信あり人が多い！	恋愛や結婚の大切さを学ばせてもらう機会を学校教育に取り入れよう
結婚相手や恋愛相手の理想が高くなる情報が溢れている	コミュニケーションが円滑でない中小企業に対して、大和市が出会いの場や育児支援を促そう
会社でのコミュニケーションが少ない	

若者向けのイベントが少ない	小さいころから社会人まで繋がっている学校だけにとまらないコミュニケーションの場を増やす。スポーツ、音楽など文化活動、ボランティア、防災活動。
若い人が集えるところが少ない	若者が気軽に集えるスポーツや文化センターなどの場を作り、若者主体を行政・企業・市民が支える仕組みで運営する
(地元)魅力を感じられない	大和市への愛着を向上させるべく地元タレントなどを企画し、ファン同士の交流などを仕掛ける
学生は勉強や部活で忙しくて時間が無い	若者の企画を実現できるイベントを学校行事に組み込むなど時間が無くて参加しやすい形で行う



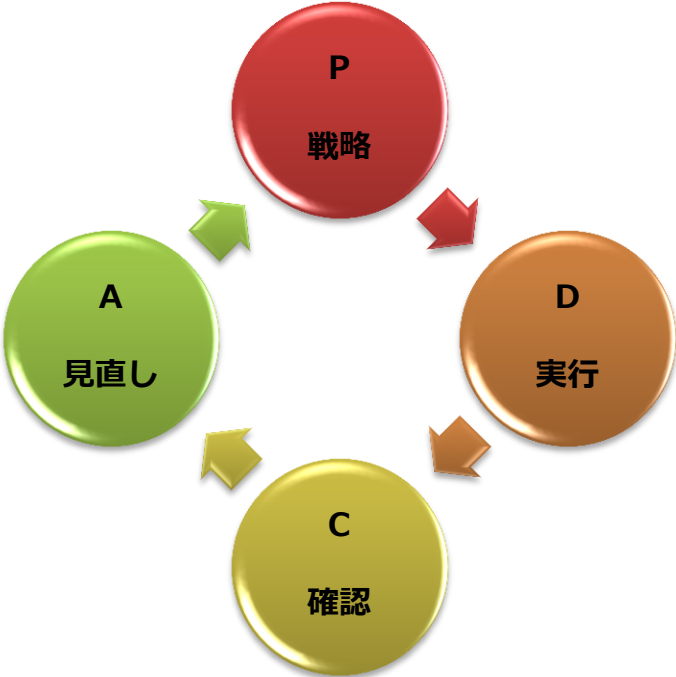
●平成 27 年 11 月 14 日 第 2 回 テーマ「大和市に住む人を増やすには」

・市民討議会の様子



(2) PDCAサイクル

○サイクルの仕組み



○サイクルの効果

